





陸 普

副官ヨリ技術本部長へ通條

二月二十日附甲第九五號上申ニ係ル八八式七種  
陣地高射砲ハ八八式七種野戰高射砲(特)ト名稱  
變更ノ上上申通條式制定セラルハキニ付該  
圖面八十七部送付セラレ度

陸普第二五二四號

昭和九年四月廿四日

右圖面送附アリタル後左案決行相成度

副官ヨリ兵器局長、教育總監部庶務  
課長、兵器本廠長、造兵廠長官、技  
術本部長、各要塞司令官、築城部

圖 頁

本部長へ通條

首題大砲別紙圖面ノ通定メラレシニ付該

圖面 部送付ス

陸軍第三七二〇號

昭和九年六月十日

圖面配賦表

昭和九年七月廿七日

教總五、兵本一二、造兵四五、技本六、

其他各一

陸軍



陸軍省  
陸軍技術本部

陸軍省  
陸軍技術本部  
第一八五號

陸技本甲第九五號

八八式七糎陣地高射砲假制式制定セラレ度件上申

昭和九年二月二十八日 陸軍技術本部長 緒方 勝

陸軍大臣 林 銑 十 郎 殿

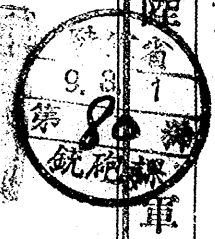
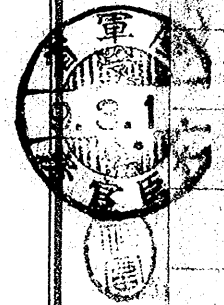
首題兵器別紙圖面ノ通假制式制定セラレ度概説及審査經過ノ概要相添へ上申ス

添 附 書 類

一八八式七糎陣地高射砲制式圖（二枚）

一 同 概説及審査經過ノ概要

一 部  
各二 部



八八式七糶陣地高射砲概説

一、本砲ハ左記ノ關係ヲ除キ概ネ八八式七糶野戰高射砲ト同一ナリ

左記

- (イ) 俯角射撃ノ裝置ヲ有ス(約七度)
- (ロ) 平射距離板ヲ有ス
- (ハ) 主トシテ「ベトン」砲床ニ据付使用ス
- 二、本砲ハ陣地据付ヲ主トスルモ必要ニ應シ野戰用トシテ使用スル場合アルヲ以テ左記ノ關係ヲ有ス

左記

- (イ) 本砲ヲ野戰用トシテ用ウル場合ハ八八式七糶野戰高射砲ト同様ニ匡礎、砲身托架、車軸及制轉機、車輪ノ諸裝置ヲ要スルモノニシテ該部品ヲモ本砲ニ附屬セシム
- (ロ) 野戰用トシテ使用スル場合ハ俯角射撃ヲ行ハサルモノトス

陸軍

## 八八式七糶陣地高射砲審査経過ノ概要

昭和八年度部案ニ依リ八八式七糶野戦高射砲ニ俯角附與及陣地据付ノ審査ニ着手シ昭和八年四月大阪工廠ニ試製注文シ昭和八年十月完成セルヲ以テ大阪工廠及大津川射場ニ於テ機能抗堪試験ヲ實施セシモ修正スル必要ヲ認メス概説ニ述ヘル如ク概ネ八八式七糶野戦高射砲ト同一ノ構造機能ナルヲ以テ特ニ實用試験ニ委託シ意見ヲ徵スル必要ヲ認メス

假制式トシテ適當ト認ムルヲ以テ茲ニ之レカ制定方ヲ上申ス

多第 一八五

陸技本甲第三二三號

八八式七糎野戰高射砲(特)圖面竝概説送付ノ件通牒

昭和九年六月十四日

陸軍技術本部副官 横井 爲男

陸軍省副官 牛島

滿殿

本年四月二十四日附陸普第二五二四號通牒ニ係ル首題ノ圖面竝概説

(圖面 貳枚) 概説 壹枚) 各八拾七通送付ス

追テ現品ハ陸普番號押捺ノ上銃砲課へ直送可致ニ付承知セラレ度

陸軍省 陸軍部 第九 第八〇 砲

軍





陸軍 副官ヨリ 兵器局長、教育總監部庶務課長、兵器本廠長、

造兵廠長官、技術本部長、各要塞司令官へ

通牒

客年六月十五日附陸普第三七〇號制定ニ係ル首

題火砲ニ對スル製作圖 部送付ス

陸普第六四三號

昭和十年二月十三日

圖面配布數

教總五、兵本一二、造兵廠四九、技本六、其他各一。

昭和十年三月六日

陸軍省 兵器局長 署名

陸技本甲第四〇號

八八式七纏野戰高射炮特製作圖送付ノ件連牒

昭和十年二月二日

陸軍技術本部副官 岡田

護

陸軍省副官 牛島

滿殿

客年六月十五日附陸普第三七一〇號ヲ以テ制定セラレタル首題火炮ニ對スル製  
作圖（目錄共拾七枚）調製中ノ處完了セシニ付九拾通送付ス

陸軍省 陸軍部 砲術課 第 80 號 10.2.4



3.12.5